



建築設備技術遺産

認定第 13 号 空気絶縁型バスダクトの絶縁ホルダー

管理者: 共同カイツック株式会社

所有者: 共同カイツック株式会社

バスダクトの開発は古く 1929(昭和 4)年の米国である。しかし、わが国におけるバスダクトの有用性が紹介されるのは、1956(昭和 31)年である。当時のわが国は高度経済成長に伴い、製造業やビル建物で使用する電力量は飛躍的に伸びていた時期である。必然的に電力の使用現場では、必要な電力を供給するために大電流の送電も求められるようになる。これに答える、製品としてバスダクトが注目され業界でも工事指針の作成が行われ、1959(昭和 34)年に電気工作物規定にバスダクト工事が取り入れられ、日本工業規格(JISC8364)が 1962(昭和 37)年 8 月に制定される。

このような、背景とともに、わが国では超高層ビルの建設も計画が多くなる。

バスダクトの使用場所が増えるに従い、わが国の温/湿度環境では、空気絶縁型バスダクト内の絶縁ホルダーに絶縁安定性が劣化する懸念が生じた。さらに、超高層ビルの配電は垂直方向に配線を行う特徴で、建物の地震動にも対応するバスダクトの施工は配慮しなければならず、絶縁性能以外の課題克服も必須になった。

申請のあった、「空気絶縁型バスダクトの絶縁ホルダー」は、ケーブルと違い、バスダクト内の母線を安全な絶縁性能に保つための信頼性向上と、絶縁ホルダーに機械的性能の向上が図られた製品として開発されたものである。この製品によって、設計者は大電力送電を垂直方向の配電としても利用できるようになり、超高層ビル建設の推進に新たな配線工事工法として貢献した製品であるとして評価し、建築設備技術遺産として認定に値するものと評価した。



空気絶縁型バスダクトの絶縁ホルダー